特殊教育学会　自主シンポジウム80

知的障害教育における「育成すべき資質・能力」を育むためのアクティブ・ラーニング

指定討論

「アクティブ・ラーニング」の視点

平成28年9月19日

植草学園大学　尾崎祐三

教育課程企画特別部会の審議のまとめ（素案）

【各学校段階の教育課程の基本的な枠組みと、学校段階間の接続】

⑤特別支援学校

○ 次期学習指導要領においては、初等中等教育全体の改善・充実の方向性は、特別支援学校においても重視することが必要である。

①教育が普遍的に目指す根幹を堅持しつつ、社会の変化に視点を向け、柔軟に受け止めていく「社会に開かれた教育課程」の考え方、

②育成すべき資質・能力についての基本的な考え方

③課題の発見や解決に向けた主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた指導方法の充実、

④カリキュラム・マネジメントなど、

教育課程企画特別部会の審議のまとめ（素案）

【各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実ーどのように学ぶかー】
（「主体的・対話的で深い学び」の実現）

①習得した知識や考え方を活用した「見方･考え方」を働かせながら、問いを見出して解決したり、自分の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう**「深い学び」**が実現できているか。

②子供同士の協働、教師や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める**「対話的な学び」**が実現できているか。

③学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる**「主体的な学び」**が実現できているか。

「主体的・対話的で深い学び」の実現
知的障害教育におけるアクティブ・ラーニングの視点①

① 「深い学び」

　具体的には、子供の興味のある生活上の課題の学習を発展させ、課題が見えるようにするとともに、解決策について考えられるようにして、課題と解決策を文章化し、それに基づいて取り組み、その成果によって達成感を味わえるようにすることなどが考えられる。

　知的障害教育においては、これまで身に付けた技能や知識を活用し、これまでの経験を踏まえ解決策を探究するという学習プロセスの中で、学習上及び生活上の課題の発見・解決を通した学びの過程が重要。

「主体的・対話的で深い学び」の実現
知的障害教育におけるアクティブ・ラーニングの視点②

② 「対話的な学び」

具体的には、子供の興味・関心のあることを、グループ学習で一緒に調べたり、日常会話の中で感想を言い合ったりする中で、協働で学習する楽しさを体感できるようにする。また、校外に出かけたときは、周りの人に質問をして答えを聴いたり、自分のやっていることを周りの人に説明したりするなど、積極的に対話を楽しめる学習を組み立てるようにすることも考えられる。

知的障害教育においては、学習集団の中で話し合いながら協働したり、積極的に校外に出　かけ、周りの人の意見などを聴いたりしながら、自分の果たすべき　役割について考えるなど、対話的な学びの過程が重要。

「主体的・対話的で深い学び」の実現
知的障害教育におけるアクティブ・ラーニング視点③

③「主体的な学び」

具体的には、自分の目標や学習方法を板書やノートに記述することで見える化することや、ビデオや写真を使って、自分の姿を振り返るようにしたりすることが考えられる。その際、取り組み方の修正については、本人の考えを聴き、実際にその方法を試してみることを繰り返すなどの支援を行ったり、うまくいった場合についても、自分のやり方を評価できるようにする支援を行ったりすることも考えられる。

知的障害教育においては、 自分の目標を立て、それを達成するための取り組み方を考えたり、自らの学習活動を振り返ったりして、いつも自分からする主体的な学びの過程が重要。

知的障害教育におけるアクティブ・ラーニング実践例

・高等部普通科2年作業学習「小学生に窓清掃を教えよう」

「深い学び」　これまで学んできたことを生かし、近隣の小学校4年生に窓清掃の教え方を探求する。

「対話的な学び」 事前学習で、生徒同士で窓清掃の説明をしあう。小学生に窓清掃で使う道具と使い方を説明する。やり方の見本を見せた後、小学生の質問を受ける。小学生の窓清掃のやり方を評価する。

「主体的な学び」 小学生に教えること、社会に役立つ体験となる。教える体験により、社会での役割を果たす意欲が持てる。

- **高等部職業学科2年農業「高齢者施設での鉢植え作業の補助」**

「深い学び」 これまでの経験を生かし、高齢者の方の鉢植え作業の補助のよりよい在り方を探求する。

「対話的な学び」高齢者に挨拶をし、鉢植え作業のやり方を説明する。高齢者との会話を楽しむ。

「主体的な学び」 高齢者の作業補助をすることにより、社会に役立つ経験ができ、自己のキャリア形成にもつながる。

知的障害教育におけるアクティブ・ラーニング実践例

・中学部　生活単元学習 「幼稚園生にゲームを楽しんでもらおう」

「深い学び」　これまで学んできたことを生かし、近隣の幼稚園生にゲームを楽しんでもらう方法を探求する。

「対話的な学び」 ゲームで得点を取ったじゃんけんゲームをし、勝ったら景品をあげるというやり取りを幼児と行う。

「主体的な学び」 幼児にじゃんけんで負けることにこだわっていたが、幼児がじゃんけんに勝ち、景品をもらって喜ぶ姿を見ることが、自分の喜びとなる学びをする。

・小学部　生活単元学習 「家族を招待してうどんパーティをしよう」

「深い学び」 これまでの小麦粉からのうどん作り経験を生かし、家族に喜んでもらいながら、よりおいしいうどんを作る方法を探求する。

「対話的な学び」家族に、小麦粉のこね方やうどんの茹で方などを説明し、感想などを聞き取る。

「主体的な学び」 家族にも役立つことが分かる経験ができ、家庭でも行うなど、キャリア形成にもつながる。

。

教育課程企画特別部会の審議のまとめ（素案）

【学習評価のありかたについて　評価の三つの観点】
目標に準拠した評価を更に進めていくため、こうした目標や指導内容の構造化を踏まえて、観点別評価については、目標に準拠した評価の実質化や、教科・校種を超えた共通理解に基づく組織駅な取り組みを促す観点から、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点に整理することとする。

・特別支援学校における知的障害教育においても、
　目標に準拠した評価を進めるために、育成すべき資質・能力を踏まえた各教科の目標に準拠した評価をする必要がある.その際、各教科の指導内容のまとまりごとに単元を設定し、各教科の目標に準拠して3観点による観点別学習評価を実施する必要がある。
　教科等を合わせた指導においても、単元ごとに、関連する各教科の目標を明記するとともに、単元の目標に基づいて、観点別学習評価を行う必要がある。

学習評価の改善に関する今後の検討の方向性

（総則・評価特別部会（第6回） 配付資料）

知識・技能

事実的な知識のみならず、構造化された概念的な知識の獲得に向かうことや、一定の手順に沿った技能のみならず、変化する状況に応じて主体的に活用できる技能の習熟・熟達に向かうことが重要であることに留意すること。各教科等の特性や発達の段階に応じて、どのような知識・技能を獲得することが求められるのかを、目標や指導内容の構成の中で明確にできるよう工夫すること。

知的障害教育では、操作や体験などを通して生活に必要な基礎的な知識が身に付けられるように学習内容を用意し、その知識を用いて生活の課題に対処する様子などを想定した上で、知識・理解が身に付いているかを評価するなど、評価方法を工夫する。

習得すべき技能が身に付けられるようにな学習内容を用意し、どの程度まで技能を身に付けるのかを想定した上で、道具の使い方や成果物を評価するなど、評価方法を工夫する。

学習評価の改善に関する今後の検討の方向性

（総則・評価特別部会（第6回） 配付資料）

思考・判断・表現

各教科等の特性に応じ育まれる見方や考え方を用いた学習のプロセスを通じて評価すること。各教科等の特性や発達の段階に応じて、どのような思考・判断・表現が求められるのかを、目標や指導内容の構成の中で明確にできるよう工夫すること。その際、思考力・判断力・表現力の成長は一定の時間をかけて成長していくものであり、学年等を超えた整理が必要であることに留意すること。

知的障害教育では、児童生徒が思考・判断する場面のある学習内容を用意し、思考・判断したことを様々なパフォーマンスで表現することを想定した上で観察するなど、評価方法を工夫する必要がある。

知的障害教育においては、思考力・判断力・表現力の成長は、より一層時間をかけて成長していくものであること、個人差が大きいことを留意する必要がある。

学習評価の改善に関する今後の検討の方向性

（総則・評価特別部会（第6回） 配付資料）

主体的に学習に取り組む態度

個人内評価（一人一人の良い点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取る部分があることに留意すること。

子供たちが学習に対する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしたりしているかどうかという意思的な側面を捉えて評価すること。

単元や題材を通じたまとまりの中で、子供が学習の見通しを持って振り返る場面を適切に設定することが必要であること。

知的障害教育では、より一層個人内評価を重視し、主体的に学習に取り組もうとしている態度の少しの変化も見落とさないようにする。

児童生徒が関心ともち、主体的に取り組める学習内容を用意し、学習態度の意思的な側面の現れ方を想定した上で観察するなど、評価方法を工夫する。

学習場面を振り返り、自己肯定感を持てるようにして、さらに自分から取り組もうとする態度を育成することも必要である。